

法学と政治学の視点から、国際社会の問題を考察し、研究する

ロシアのウクライナ侵攻、COVID-19などの感染症、気候変動、移民・難民問題など、今日の国際社会には、既存の法や政治システムが経験したことのない問題が次々に起こっています。国際関係法学科では、そのような複雑な問題がなぜ生じ、どのような解決策があり得るのかを、法学や政治学

を通して分析し考えます。グローバル化が深化する中で生じる国境を越えた法的・政治的問題を学ぶと同時に、国際社会で活躍する手段としての英語教育にも力を入れています。国際機関やNGO、外資系企業や商社など、世界の舞台にはばたく夢を実現するための第一歩となることでしょう。

| 特色 |

1—

1年次から専門科目を学ぶことができます

国際関係法入門のほか、法律学を学ぶ上で重要な基礎となる、憲法・民法・刑法の入門科目を学びます。また、1年次には広い選択の幅をもった全学共通授業科目も用意されています。専門分野にとらわれない、魅力いっぱいの科目が多数開講されています。

2—

徹底した少人数教育のゼミナール(「演習」科目)

1年次の「入門演習」では、高校とは異なる大学の講義を受けるための基礎的能力や方法を身につけます。2年次の「基礎演習」、3～4年次の「専門演習(演習I・II)」では、学生それぞれの関心に基づいて、問題をより専門的に判断する姿勢と洞察力を身につけます。

3—

国際社会で活躍するために、外国語教育を重視

学科の特性から外国語を重視したカリキュラムとなっています。週3時間の英語の授業では、入学時に行われるTOEIC®テストのスコアにしたがい、レベル別のクラスに分かれて授業を行うことで、効果的に外国語能力の向上がはかれます。

4—

国際関係法の専門知識を応用し、国際人をめざす

地球規模の安全保障・環境に関する法政策、国際的な人権・開発援助・経済活動・知的財産に関する法、英米法、EU法など豊富な専門科目群の知識の修得と、交換留学・認定留学・短期留学の学内制度の活用により、総合的な能力の向上をはかることができます。

グローバル社会に対応する講義体系

模擬法廷教室は国際法廷に対応できる構造です。英語が中心の「外国書講読」は論文から契約書まで触れられます。

卒業生の多彩な進路 国際社会での活躍をめざして

国際舞台での活躍をめざし大学院へ進学する学生も多くいます。国際関係法の知識は公務員にも求められています。

教員紹介

専門・研究テーマ／ゼミテーマ／教員名

国際環境法、環境法
[国際環境紛争と法
国際環境法の役割と機能]
一之瀬 高博 教授

憲法、地域共同体法
[比較憲法
「グローバル化」時代の憲法]
大藤 紀子 教授

国際政治学
[国際政治学
戦争の原因、平和の条件]
岡垣 知子 教授

国際法
[国際法]
鈴木 淳一 教授

国際経済法
[独占禁止法と現代市場
デジタルプラットフォーム市場と独占禁止法]
宗田 貴行 教授

英米法
[英米法
アメリカ法の枠組みと動態]
中窪 裕也 特任教授

国際私法
[国際私法
涉外私法関係の規律]
山田 恒久 教授

**憲法、比較憲法、外国人の基本的
人権、政教関係、違憲審査制**
[比較憲法学
他国の憲法を学んで、
より良く日本の憲法を理解する]
L.ベドリサ 教授

英語教育
木村 雪乃 准教授

英語教育
中村 麗奈 特任助教

英語教育
B.バッタ 特任助教

英語教育
J.ラシーン 教授



国際人権に関わる事例を扱う「国際人権法」



少数精鋭の指導が行われるゼミ